

一之瀬地域森林整備推進協定による地域と 連携した森林づくり

— 三重県度会郡度会町一之瀬地区（中部整備局津水源林整備事務所） —

地域の概況

度会町は、三重県南東部の志摩半島の内陸に位置し、東を伊勢市、西を大紀町、大台町と接しています。

町の土地面積の約85%が森林であり、町内には大台ヶ原を源流とする「宮川」やその支流の「一之瀬川」が流れ、清流として知られるこれらの河川の周辺には、地域の特産品の伊勢茶のお茶畑が広がっています。

一之瀬川の流域は古くから林業が盛んであり、昭和30年代後半には、化石燃料の普及に伴う薪炭材生産の衰退等により、森林の荒廃や河川の氾濫等が生じていました。地域において旧薪炭林の人工林化が進む中、奥地森林の水源涵養機能等の維持・向上を図るため、昭和41年度から一之瀬川流域を中心に水源林造成事業を開始しました。現在までに約1,200haの森林を造成し、計画的な管理を実施しています。

その後、森林の成長に伴い水の濁りや渇水時の水不足等も解消し、昭和55年には簡易水道施設が整備され、現在では飲料水・生活用水・農業用水等を供給する地域の重要な水源地として機能しています。



一之瀬地区の簡易水道施設

一之瀬地域森林整備推進協定による森林整備の取組

昭和30年代から40年代に造成した森林が徐々に間伐期を迎える中、当該地域は急峻な地形で路網整備が十分に進展しておらず、森林整備に当たり生産性の向上や事業コストの削減が不可欠となっていました。

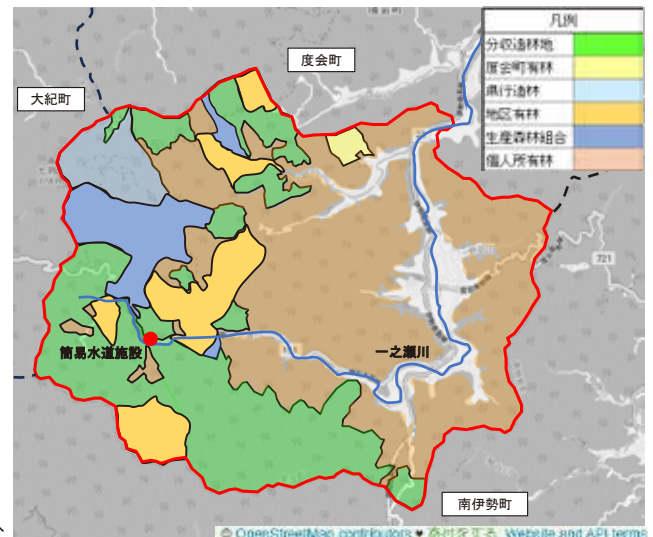
こうした課題を解決するため、平成21年10月に地域の森林所有者が集まって「一之瀬地域林業推進協議会」が設立されました。さらに、平成22年2月には、同協議会の森林所有者に加え、三重県、度会町、森林整備センター、いせしま森林組合がこの協議会に参画し、5者による「一之瀬地域森林整備推進協定」が締結されました。

この協定の締結により、全国初の「民民連携」として関係者の連携・協力の下で、私有林2,958ha、森林整備センター1,395ha、県行造林194ha、町有林38haの合計4,585haの森林を対象に森林共同施業団地を設定し、効率的な路網整備や施業の集約化等により団地内の森林整備を推進することとなりました。

同協定では、5年を1期とした実行計画を作成して計画的に森林整備を実施することとしており、現在3期目の実行計画に基づき取組を進めているところです。現行の実行計画では、令和2年度から6年度に、森林整備704ha、路網整備25.0kmが計画されており、このうち森林整備センターに関係するものとして、森林整備404ha、基幹作業道等の路網整備7.5kmが計画されているところです。



森林共同施業団地内の整備センター契約地



(右図) 共同施業団地内の
主な森林の所有区分

水源林造成事業による森林整備の取組と今後に向けて

森林共同施業団地内の水源林造成事業の契約地は、令和5年度末現在で41箇所、契約面積1,395haとなっています。

契約地の多くは、昭和40～50年代に、50年後に主伐を行う予定で分収造林契約を締結した箇所であり、平成20年代後半から、関係者間で契約期間満了後の取扱いを協議していく中で、団地全体の将来的な森林整備の構想との調和や、地域の重要な水源地として水源涵養機能をはじめとした森林の公益的機能を持続的に発揮させていく必要があること等から、契約期間を95年～150年に延長するとともに、育成複層林の造成に向けて契約変更を行いました。

育成複層林への誘導に係る森林施業は、平成28年度から令和4年度にかけて段階的に実施しており、現在までに3契約地、合計49.5haの区域で更新伐と下木の植栽を19.15ha実施しました。

また、森林共同施業団地の基幹的な路線として、当センターが主体となり、大型トラックの走行を前提とした基幹作業道18.6kmの整備を予定しており、令和5年度までに6.6kmの整備が完了しました。

将来的には、既設の林道等と併せて団地内を循環する路網が完成することにより、契約地をはじめ、周辺民有林等での伐採・搬出作業の効率化はもとより、造林・保育作業での資材運搬や日常的な森林管理のための移動経路等としての活用が期待されています。

さらに、こうした取り組みに加えて、本年度から、令和3年度に開始された「面的整備」のメニューにより、森林共同施業団地内の既存の契約地に隣接した地区有林や生産森林組合の所有森林で、被災リスク等を軽減するための間伐や、育成複層林の造成を計画しており、本年5月13日に地区有林の所有者と分収造林契約を締結したところです。

森林整備センターでは、これまでの取組で得られた知見や経験を踏まえて、引き続き、育成複層林の造成をはじめ、契約地の森林整備を推進し適切に管理するとともに、森林共同施業団地内の森林の公益的機能の持続的な発揮に向けて、事業主体の垣根を越えた協力体制を保ちながら、地域と連携した森林整備を推めていく考えです。



上空から見た一之瀬地区森林共同施業団地



一之瀬地区森林共同施業団地内の基幹作業道



搬出準備完了！作業道沿いに積まれた間伐木



一之瀬川源流の造林地

一之瀬地区の整備推進協定書は冒頭に「水源のかん養」「国土の保全」「公益機能の持続的発揮」等を掲げています。

全国的にも有数の優れた水質である一之瀬川は地域の心の拠り所であり、その水源地の森林を整備することは次の世代へ清らかな流れを残す取り組みとも言えます。



人々に親しまれる一之瀬川（写真掲載許諾済）



度会町長 中村 忠彦さん、 いせしま森林組合代表理事組合長 玉串 憲一さん にお話を伺いました

左：度会町長 中村忠彦さん
右：いせしま森林組合 代表理事組合長 玉串憲一さん

一之瀬の森林 当時の状況は？

一之瀬川上流の森林は、元々は地域の共有林として主に薪炭材の生産に活用されていました。石油やガスへのエネルギー源の代替に伴い、薪炭材需要が減少する中、将来の森林整備の方向性を検討・模索していた時に、森林開発公団（当時）の水源林造成事業を知り、昭和41年度に初めて契約を締結しました。

当時は木材価格が良く造林への期待も高かったこともあり、順次、水源林造成事業の契約地が増加していき、道がない中で、ふもとから苗木を担ぎ1時間も歩いて地拵えをし苗木を植栽しました。植栽木が小さい頃は、頻繁に洪水が発生し、床上浸水となるケースもありましたが、現在はそのような洪水も発生しなくなり植栽の効果が現れています。

昭和55年には、一之瀬川上流に簡易水道施設（現在は上水道へ移行）が整備され、流域の集落の514世帯、1,161人に生活用水を供給しています。また、一之瀬川の清らかな水は、約40haの水田等にも活用されており、地域の生活になくはならないものとなっています。

森林共同施業団地の狙いと効果は？

平成22年に一之瀬地域森林整備推進協定を締結し、5年間の森林整備の実行計画は現在3期目に入っています。紀伊半島の森林は、私有林が多く細切れのため効率的な施業の実施が課題となりますが、団地内には、森林整備センターとの契約林をはじめ地区有林や生産森林組合の森林が多く、施業ロットをまとめていく狙いがありました。また、道がなければ森林の手入れはできませんので、路網整備と施業の低コスト化を進めることや、森林を適切に整備することで自然災害の防止が期待できることも含めて団地を設定しました。

所有形態の垣根を越えてまとめて施業をすれば相乗効果が発揮されるのではないかと構想していたところで



いせしま森林組合
代表理事組合長 玉串憲一さん

でしたが、整備センター等の施業地が見本となって、個人所有林でも施業が進む効果があらわれました。また、路網が整備されたことによって、様々な作業がしやすくなり施業コストも縮減され、労働安全の面でも安全に施業ができるようになりました。

地域の反応や今後の課題は？

団地内の人工林は、初めての収穫を迎えている段階ですが、全ての森林を皆伐して再造林することは、経費や労務を考慮すると現実的ではありません。成熟しつつある森林をこれからどのようにしていくかが課題です。また、私有林の



度会町長 中村忠彦さん

所有者が高齢化する中で、若い人の中には境界が解らない方や「山はいらない」という声もあり、このような私有林を今後どのようにしていくのかも大きな課題となっています。

私有林の整備は、森林組合において、できるだけ施業地をまとめて、搬出が可能なところは作業道を作設して施業を行っていますが、まだまだの状況です。目に見える成果として収益が得られれば、私有林の所有者にメリット・山の価値に気づいてもらえますので、こうした効果が発揮できるよう取組を進めています。

今後森林整備センターに期待することは？

森林整備センターの契約地は植栽から60年～50年が経過し良好な森林に育っています。水源林では公益的機能と経済面の両方の役割が求められるため、伐採して植栽していく森林もあれば、次の世代に良好な森林を継承できるように、複層林化なども進めていく必要があると思います。

「国破れて山河あり」という有名な漢詩の一節がありますが、逆に、山河が蔑ろ（ないがしろ）だと国を治めることができないと思います。自治体も同じで、山や川が荒れたら地域の人々に災害等の被害が生じてしまいます。このような点からも、契約満了で関係が途切れるのではなく、本年度から開始された「面的整備」のように、森林整備センターが地域の森林整備に引き続き関わっていくことは重要であり歓迎しているところです。

自然環境全体を考えると、水を育む森林がきちんと管理されていることが重要です。“山に関心を持った人がいた”我々の時代から、これから次の時代、森林に直接関係がない方々も含めて、そのような気持ちを繋げていければと考えています。